



特集

こどもたちが学ぶガラスびんの3R

地球温暖化やごみ問題、身近な自然の減少などの環境問題を解決し、持続可能な社会をつかっていくためのひとつの方策として、こどもたちの環境意識を高めるための教育が、多方面で進められています。

ガラスびん的环境適性を広く啓発するために、当協議会ではこども向けの広報活動を展開。

当協議会は、前身の「ガラスびんリサイクル推進連合」の設立翌年の1985年(昭和60年)には、絵本「うまれかわったりさ」を作成し幼稚園や小学校に配布、また1992年(平成4年)には、小学生用のPRビデオ「びんランドのきかんしゃ」を制作しイベントで利用するなど、こどもたちの環境学習に役立つ広報活動を長年にわたり展開してきました。(びんのリサイクル通信20号参照)

最近では、全国の小・中学校において「総合的な学習の時間」が実施され、環境をテーマにした授業等で、インターネットが広く利用されるようになっており、当協議会においても、ホームページでのキッズコーナーの充実を図っています。また3年前に作成した3R早わかりムービー「ガラスびん3R作戦」に登場するペンギンのキャラクターは、小学生用のリーフレット、キッズサイト、イベント展示等で展開し広く親しまれ、びんの3Rの推進に取組む当協議会を象徴するキャラクターに成長しています。



▲小学生用3R早わかりムービー



▲当協議会のキッズサイト



▲小学生用リーフレット

ガラスびん関連企業が西宮市で「出前授業」を実施。当協議会主催のポスターコンクールの入賞者発表。

今回の「びんの3R通信」では、ガラスびんに関する環境学習の事例として、西宮市で実施されている企業の「出前授業」を取り上げました。酒造りに適した水が湧く西宮市には酒造会社が多くあり、お酒を入れるびんに関係したさまざまな会社が集まっていることから、西宮市ならではの企業と連携した環境学習が展開されています。

また、当協議会では、こどもたちにガラスびんのことをもっと身近に感じてもらい、リサイクルの大切さを理解してもらうことを目的に、環境学習の一環として「ガラスびんリサイクル・ポスターコンクール」を開催しましたが、今号でその結果をご報告します。初めての試みながら145件の応募があり、厳正な審査のもと18人の入賞者が決定。ガラスびんについて一生懸命に学習した様子がうかがえる作品が数多くありました。審査員の全国造形教育連盟の先生からは、「身近にあるもので環境について考える素晴らしい企画である」という評価をいただきました。



▲ポスターコンクールの審査会



▲小学校低学年部門の表彰式

『環境学習都市宣言』を行った西宮市において、 ガラスびん関連企業6社が、環境学習の「出前授業」を展開。



NPOと西宮市内の企業が連携して、
教材として活用できる環境学習支援プログラムを作成。

2003年12月に全国に先駆けて『環境学習都市宣言』を行った西宮市において、「西宮・お酒とびんのものがたり」というテーマで、ガラスびん関連企業による小学校への「出前授業」が毎年展開されています。この事業は、*NPO法人子ども環境活動支援協会が地元企業と連携して、「企業・学校・NPOによる循環型社会構造をテーマとした環境学習支援プログラム」を開発したことに始まります。開発の対象となったテーマは、「衣」「食」「住」「エネルギー」「びん」「エコ文具」の6つで、それぞれ、生産・加工・流通・販売・処理など、循環構造に基づく企業で分科会をつくり、小中学校の教材として活用できるプログラムを作成。各テーマとも、「循環のしくみとその中での消費者の役割」を子どもたちに考えてもらうことを、基本的な目的にしています。プログラムの開発にあたっては、経済界、教育界、行政関係者からなる委員会を設置して、社会的意義や教育上の効果などについて検討を行っています。

びんの分科会の参加企業は、金型を製造している株式会社吉田製作所、ガラスびんを製造している日本山村硝子株式会社と株式会社山村製壺所、お酒を製造してびんに詰めている辰馬本家酒造株式会社、びんを運搬するケースを扱っている新日本流通株式会社、カレットを製造している株式会社山一商会です。

このようにして開発された環境学習支援プログラムを活用して、西宮市では2010年10月までに、びん分科会による「出前授業」は、市内の7つの小学校で合計16回実施されてきました。

※1998年に、西宮市の呼びかけで市民・事業者・行政のパートナーシップにより発足した非営利活動団体で、子どもたちの自主的な環境活動を通して、持続可能な地域づくりと人づくりを展開しています。

子どもたちが「びんの気持ち」になって
各企業のブースをめぐり「びんの一生」を体験。

授業の流れは、最初に、子どもたちに予習として探してきてもらった家の中のびんについて発表してもらった後、ガラスやびんの歴史、びんと西宮市のつながりなどについて説明します。続いてプロジェクターでDVD「ガラスびん3R作戦」を鑑賞。その後、「びんの一生ゲーム」がスタートします。ゲームは、金型製造工場、製びん工場、清酒びん詰め工場、家庭（販売店→消費者→分別回収）、カレット製造工場の5つのブースを設置し、そのブースを一周することにより「びんの一生」を体験。各ブースで説明を聞いた後、1つの文字をもらい、それをワークシートに記入し、ゴールで5つの文字を並べ替えると「まわるびん」という言葉になります。授業の最後には、子どもたちとお手伝いとして参加した保護者の方々に修了証が授与されます。

今秋10月に授業を行った市内の浜脇小学校では、4年生5クラス、168名が参加。体育館で2時間にわたり、循環するガラスびんについて体験学習をしました。参加した保護者の方々からは、「実際に企業の方が来られて話をされることで、子どもたちの心の中に何か残ったのではないかと思います」「子どもだけでなく親も学習させていただきました」等、地元企業が実施した授業にとっても好意的な感想が寄せられました。



▲清酒びんへのラベル貼りを体験



▲リユースするびんとリサイクルびんの分別を体験



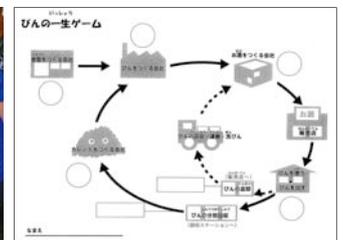
▲クイズでびんの形をつくる金型を学習



▲溶解炉と金型の模型でびんの気持ちを体験



▲カレット工場での異物除去を疑似体験



▲5つの文字を記入するワークシート



日本山村硝子株式会社
CSR推進室 CSRグループ
リーダー
山田 隆 氏

循環しているガラスびんの魅力と製造工程を、 より分かりやすく子どもたちに伝えていきたい！

びんの製造工程やびんのリサイクルについて、子どもたちに絵や写真、言葉で説明しても簡単に理解できるものではないと思います。そのため、このような「びんの一生ゲーム」を通して、びんが循環していることを、楽しみながら理解してもらうことは、とても意義があると思います。

今後の課題は、どうしたら子どもたちに環境やリサイクルについて、もっと興味をもってもらうことができるかということです。説明をたくさんするよりも、見て触って体験してもらい、印象に残るようなブースにしていきたいと思っています。



ガラスびんリサイクル・ポスターコンクール 各賞入賞者 発表!

当協議会では、びんのリサイクル通信(現びんの3R通信)の創刊20号を記念して、「ガラスびんリサイクル・ポスターコンクール」を開催しました。9月中旬に応募を締め切り、10月3日には、全国造形教育連盟の先生方にご協力いただき、厳正な審査のもと、小学校低学年部門・高学年部門、中学校部門について、それぞれガラスびんリサイクル促進協議会会長賞1点、優秀賞2点、アイデア賞3点の入賞作品、計18点を決定。会長賞を受賞した3人については、10月末から11月初旬にかけて実際にお会いして表彰式を行いました。

※ホームページでは作者による作品の紹介や審査員の感想等をご覧いただけます。 <http://www.glass-recycle-as.gr.jp/poscon/index.html>

小学校 低学年

小学校 高学年

中学校

■ガラスびんリサイクル促進協議会 会長賞



吉森 紗都季さん
東京都
世田谷区立東大原小学校3年



藤本 峻多さん
埼玉県
狭山市立柏原小学校5年



浅尾 志保さん
東京都
町田市立町田第二中学校2年

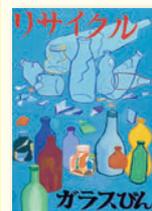
■優秀賞



永田 萌さん
愛知県
岩倉市立岩倉南小学校3年



横井 実のりさん
愛知県
北名古屋市立師勝北小学校4年



古川 美穂さん
東京都
大田区立御園中学校2年



吉羽 春佳さん
東京都
江東区立南陽小学校3年



余傳 菜鈴さん
岡山県
玉野市立荘内小学校6年



林 稚菜さん
東京都
江戸川区立葛西中学校1年

■アイデア賞



橋本 陽菜さん
東京都
北区立王子第一小学校3年



川島 耀さん
埼玉県
草加市立草加小学校4年



井戸 こはるさん
東京都
稲城市立稲城第二中学校3年



石川 凜佳さん
東京都
中野区立丸山小学校3年



田原 青空さん
埼玉県
草加市立草加小学校4年



井上 星南さん
東京都
町田市立町田第二中学校2年



原島 夕実果さん
東京都
葛飾区立半田小学校2年



大西 達貴さん
兵庫県
姫路市立津田小学校5年



中本 早紀さん
山口県
中学校2年



3R推進団体連絡会が「第5回容器包装3R推進フォーラムinさいたま」を開催。

3R推進団体連絡会は、10月25日(月)・26日(火)、さいたま市の埼玉会館において、「よりよい容器包装リサイクル制度を目指して」をテーマに、「第5回容器包装3R推進フォーラムinさいたま」を開催しました。これまでの横浜市、神戸市、東京都、京都市におけるフォーラムでは、消費者・自治体・事業者の各主体間の情報共有と問題意識の共有を図ってきましたが、今回はこれまでの積み重ねを踏まえながら、容器包装リサイクル制度の在り方や課題などについて、活発な意見交換が行われました。

初日の午前中は、さいたま市環境局長の挨拶の後、3R推進団体連絡会の活動報告、鳥取環境大学の田中勝教授の基調講演「これからの容器包装の3R」があり、さらに経済産業省・環境省・農林水産省の国の政策についての講演がありました。午後は4つの分科会で、少人数の全員参加型で討議が行われた後、全体会でその報告がありました。

翌日は、希望者によるさいたま市東部リサイクルセンターの見学会が実施されました。



▲全体会(25日)



▲基調講演(25日)

リターナブルびんの拡大をめざして、地域におけるリターナブルびん促進活動を支援

昨年度、リターナブルびん普及ミニシンポジウムを、全国5ブロック(東京・京都・名古屋・仙台・福岡)で開催しましたが、その継続的な取組みとして、今年度はシンポジウム地域幹事(NPO団体・びん商)と協議し、リターナブルびん促進活動を定着させるための支援を展開しています。

東京では、8月にエコギャラリー新宿主催のリターナブルびんの講座を後援し、当協議会事務局が講師を勤めました。また11月には、福岡地区でNPO法人循環生活研究所主催の「フリーマーケット三苦」でリターナブルびんの解説と体験試飲、「環境フォーラムせんだい2010」では、東北びん商連合会が環(わ)の学校で実施した「りたとりさの紙芝居」にも協力しました。

他にも、中部びん商連合会のRマークびん入り清酒の商品化やRびんプロジェクトと京都硝子壺問屋協同組合のリユースイベント活動を支援しています。



▲エコギャラリー新宿での3R講座

びん再利用ネットワーク主催・当協議会后援の「すきだ・まちだ・りゆーすだ」キャンペーン開催。

びんのリユースに取り組む生協で構成された「びん再利用ネットワーク」が主催し、町田市の商店会連合会と連携した「キャンペーン実行委員会」が企画運営した「すきだ・まちだ・りゆーすだ」キャンペーンが、10月3日(日)から30日(日)まで開催されました。キャンペーンでは、町田市民と学生と商店街がいっしょにリユースの普及活動を展開しました。

このキャンペーンには当協議会も後援しており、日本ガラスびん協会とともに10月5日(火)に開催された「ぼっぼ町田・リユースイベント」に出展し、リターナブルびんの紹介等を行いました。また11月7日(日)に開催された「町田市民フォーラム・リユースイベント」では、当協議会のリターナブルびんポータルサイトについて紹介しました。



▲ぼっぼ町田・リユースイベント



▲町田市民フォーラム・リユースイベント

あきびんの排出ルールのチラシを改訂しました。

「キャップを取る」「中をサッとゆすぐ」「あきびん以外のものを混ぜない」という、排出時の3つルールをアピールし、混ぜてはいけないものを理解してもらうためのチラシを改訂しました。びんからびんへのリサイクルをスムーズに展開させるための啓発ツールとして、ご利用いただけます。

●ホームページ
<http://www.glass-recycle-as.gr.jp/gover/index5.html>



ペンギン・キャラクターのシールが完成しました。

小学生用の3R早わかりムービーやリーフレット、キッズサイトでもおなじみのペンギン・キャラクターをちりばめた可愛いシールが完成しました。排出時の3つのルールを表現したシールもあり、リサイクルの啓発にもつながります。すでにポスターコンクールの参加賞やエコプロダクツ展のノベルティとして使用しております。

排出ルールのチラシとペンギンシールをご希望の方は、当協議会事務局までお問い合わせください。

